

CASE PRESENTATION

Dentist

Technician

Hygienist

総義歯製作における歯科医師と 歯科技工士の情報共有とコラボレーション —「フュージョンII」を用いた精密印象法と 「リブデントグレース」による機能的な義歯の製作—



愛知県半田市 入れ歯センター 半田
歯科技工士
貝沼公仁

はじめに

高齢社会の中で、質の高い義歯への需要は確実に増加していると実感している。その中でもとくに総義歯への期待が高まっていることを技工士の立場で「臨床に立ち会う」ことで感じることが多い。術者はいかに患者さんの期待に応え、満足される義歯を製作できるかを問われている。日常の臨床の中でどのような義歯がよく噛めて、患者さんに喜んでもらえる義歯になるのかということ悩まれている方は多いのではないだろうか。そのために歯科医院で

の印象採得に必要な解剖学的な模型分析、咬合平面の設定、人工歯配列、アンテリアカップリング、オクルーザルコンタクトなどを歯科医院と歯科技工士がコラボレーションして情報を共有することで、目指すゴールに向けて戦略が立てられる。義歯製作のステップとして、概形印象採得や咬合平面の設定、咬合器へのマウント、ボーダー設定など一つ一つを正確に行うことが大切である。長い年月をかけて、壊れていった咬合状態をコピーデンチャー、プ

ロビジョナルデンチャーで徐々に正しい咬合の位置へ修正していく。患者さんにもその過程を理解してもらい、ファイナルの総義歯を装着して噛める喜びを得ていただく。今回は精密な印象採得に適した印象材「フュージョンII」と配列しやすく、選択肢の多い審美的な人工歯「リブデントグレース」を用いて、総義歯製作に重要な歯科医院と共有すべき情報及び技工作業のポイントを紹介させていただく。

症例(女性、80代)

●治療用旧義歯の製作——旧義歯を活用した治療用義歯。咬合面の調整、リライニング材などによる粘膜面の調整、床縁の追加などを実施して、口腔内の問題を改善して、徐々に正しい咬合位置へ誘導していく。



1

治療用義歯の正面観、咬合面観、粘膜面観、唇側面観。

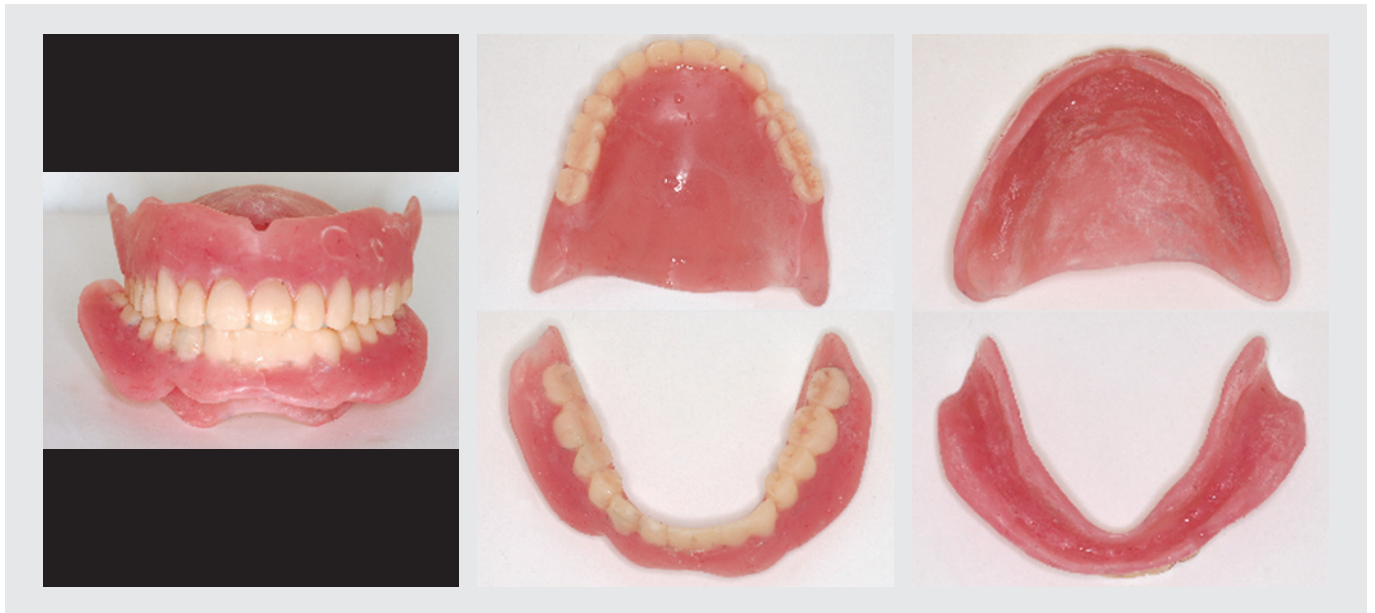
●コピーデンチャーの製作——旧義歯による治療用義歯にて、顎位が安定した段階で、治療用義歯から技工用シリコンで印象を採り、ユニファストⅢA3を用いて、人工歯部分を一歯ずつ築盛し、その後、プロキャストDSPをスプルー部より流し込んで重合し、コピーデンチャーを製作する。プロキャストDSPは流し込みレジンながら、精度が高く、面性状が滑沢である。



2 技工用シリコンによる治療用義歯の印象（※フラスコから取り出し後に流し込みのスプルー部を設ける）。

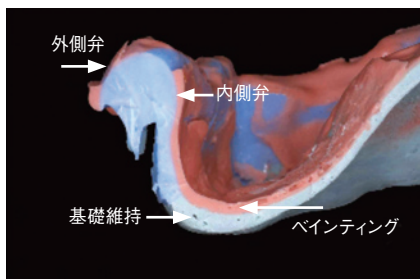


3 プロキャストDSP。



4 完成したコピーデンチャーの正面観、咬合面、粘膜面、唇側面観。

●印象採得——GOAにより、顎位の診断をした後に上下の閉口印象を採る。

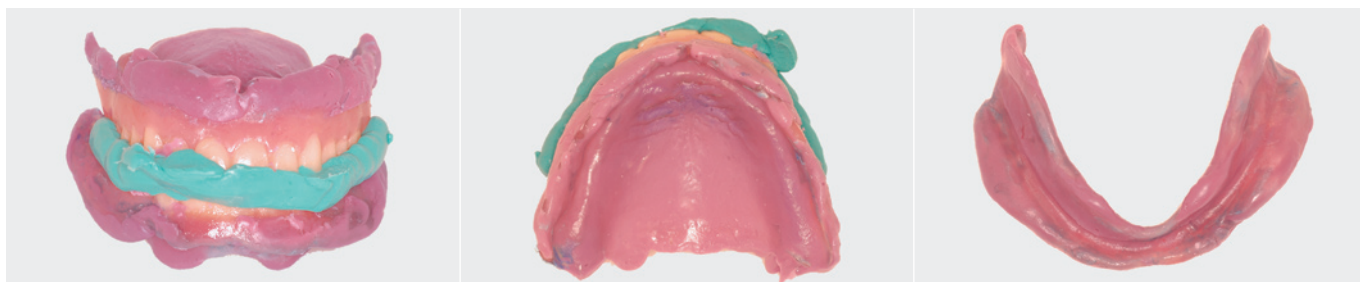


5 この図の印象面のカットのように、基礎維持、内側弁、外側弁、ウォッシュ印象採得における筋肉を機能的に印象に再現させるイメージが大切である。



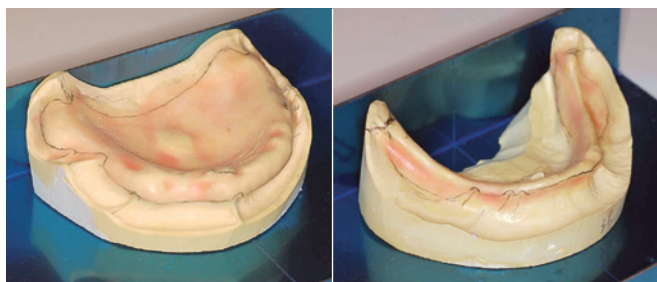
6 水となじみやすいフュージョンIIは粘膜の細部まで詳細に印象が採れ、以降の作業に優位である。 ※図5の精密印象材はエクザミックスファインレギュラー、インジェクションタイプを使用。

●**印象採得(精密印象)**——概形印象後、個人トレーにて、精密印象を採得する。フュージョンII ウォッシュを用いたコピーデンチャーによる閉口印象採得。ここまできて、ようやく新義歯製作の技工作業に移る。



7 精密印象。

●**規格模型製作**——印象採得後、硬石膏を注入する。筆者は総義歯で、レジンの重合収縮を補う膨張が欲しい場合には、ニュープラストーンの高膨張(0.40%)を選択的に使用する。



8 規格模型製作ステップ。あらかじめ、規定された部位、高さに模型を設定することで、咬合器上での位置再現性が著しく向上する。



9 ニュープラストーンシリーズ。

●**人工歯の選択と形態修正**——診療室で患者さんの「立ち会い」の際にも持参したリブデントグレースのモールドガイドで選択することもある。本症例はClass1に該当し、中心が尖っている犬歯を配列前にファセットになる部分を調整しておく。



10 筆者はリブデントグレースのA3.5とA4を常時保管している。このセットを持って、患者さんの目の前で希望を叶えるように選択することもある。形態も男女の識別が明確であり、選択も容易である。また、歯冠長の長い形態もあり、歯頸部の退縮を表現する際やインプラントのオーバーデンチャーにも有効な人工歯である。



11 筆者は人工歯をそのまま配列することは少なく、少しの形態修正を施した後に配列する。



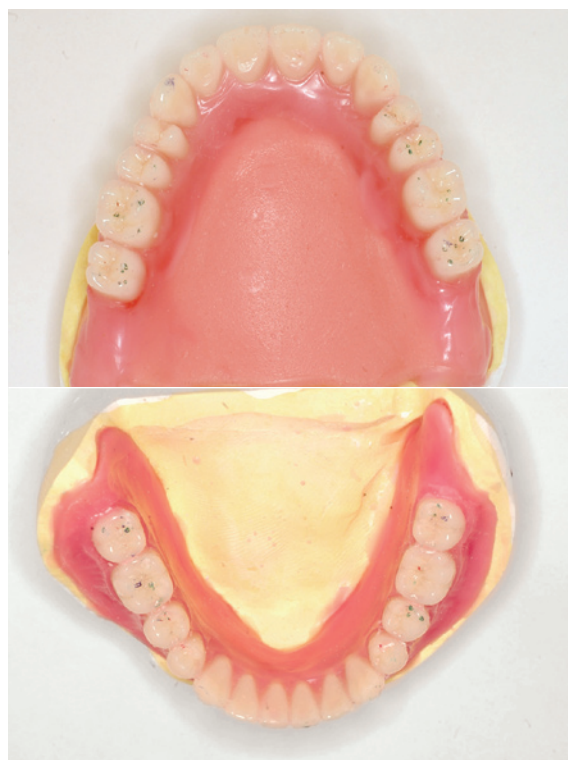
12 犬歯の形態修正前(左)と修正後(右)。

●人工歯配列——リブデントグレースの配列には特別なテクニックは必要なく、容易に正確なオクルーザルコンタクト付与が可能。第一大臼歯に一級関係を構築すれば、ガイドとディスクルージョン、バランシングはおのずと機能して、正しいアーチフォームとアンテリアガイダンスができた蠟義歯が完成する。



13

リブデントグレースは歯冠長が長くとれ、歯頸部が少し退縮した高齢者の歯肉表現が容易であり、自然観につながっている。



14

上下咬合面観。機能的な上下顎のオクルーザルコンタクトが獲得できている。

●完成義歯——閉口印象法によって得られた機能印象から再現された機能的な最終義歯が完成した。



15

正面観と両側面観。天然歯のような自然感をもつリブデントグレースのGEタイプ。穏やかな形状で、やさしい女性らしさが表現できる。



16

完成した義歯の咬合面と粘膜面。

●患者様への装着——通法どおりに最終義歯を試適。下顎義歯の吸着が強く、患者さんは大きく開口しても咬合試験をしてもまったくズレも外れもしない。



17 フィットチェッカーアドバンスによる最終義歯による試適。内面は適合も画像のとおりで、痛いところもなく、無修正である。



18 最終義歯セット後。患者さんがテストフードのお煎餅を前歯で小さく噛み砕き、臼歯部に舌で運んで粉碎する。このときに微動だにしない義歯を見て、西島先生も完全な人工臓器、装具であると感心されていた。

おわりに

歯科医院との情報の共有にはどうしても臨床を通じたコラボレーションが必要であり、その成功体験を積み重ねて結果を出すには、時間がかかる。

今回の症例をご提供いただいた西島先生とも3年間一緒に取り組んできて、患者さんが総義歯を試適した際に、患者さんの

喜びというゴールに到達できたことに感銘されていた。自分自身もスタッフとして協力したGCの名古屋営業所で開催された総義歯セミナーに参加された先生方が歯科技工士に何を伝えるべきかを受講されたことも大きいと感じている。今後も歯科技工士として歯科医院とのコラボレーションと

情報共有を広げるために、配列などのミニセミナーなどを有志を対象に始めている。最後に今回の臨床写真をご提供いただいた西島奉一先生、正乃先生に末筆ながら感謝申し上げます。



19 ミニセミナーの風景。